

目次:

<特集>

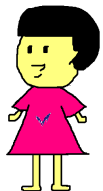
- 1 評価結果特集
- (1) 基準協会からの検討結果
- 2 (2) 評価委員会からの評価結果
- (3) 改善に向けて

- 3 評価結果の活用
- 学長方針への評価の反映

じこてんNEWS 4

- ① 認証評価
- ② じこてん日記

編集後記



じこてんちゃんのつぶやき:

大学の人は、自分たちで大学を良くしていこうとしているのね。

<特集> 自己点検・評価に基づく 学外と学内からの評価結果の受理

本号では、2012年3月に受理した「大学基準協会による『改善報告書検討結果』」と、同月に公表された「学内評価委員会による『評価結果』」の特集号です。学外(大学基準協会)と学内(評価委員会)から、中長期計画や年度計画に活かせる貴重な意見、提言をいただきました。

(1) 大学基準協会から「改善報告書検討結果」を受理しました

本学は、2007年度に大学基準協会の認証評価を受け、2008年3月に評価結果を受理しました。評価結果には5つの長所と12の助言が示され、助言については3年後に「改善報告書」を提出し、再度評価を受けることが定められていました。

本学では、「改善報告書」提出に向けた「改善アクションプラン(3か年計画)」制度によって、助言を受けた事項の改善を進め、その結果を2011年7月に基準協会へ提出しました(『じこてん』第6号参照)。このたび、2012年3月9日付けで、この「改善報告書」に対する評価結果を受理しました。

基準協会では、同協会に加盟する各大学の教職員が相互に評価し合う「ピアレビュー」という方法で評価をしています。今回の検討結果も、他大学の教職員等からなる評価委員会において検討されたものです。

以下、評価結果の概要について紹介します。なお、全文は自己点検・評価実務担当者説明会で配付すると同時に、大学評価ホームページでも公開していますのでご覧ください。

— PDCAサイクルが機能している点が評価されました

まず、評価された事項として、認証評価結果に基づき「改善アクションプラン」を策定し改善を進めている点、すなわちPDCAサイクルが機能している点が挙げられました。

アクションプランは本学オリジナルの仕組みで、PDCAサイクルを実質化するツール(=評価結

果を次の計画に反映させ、計画的に改善が図られる仕組み)として、他大学からも注目を集めています。

今後も、今回の指摘事項の解決だけでなく、毎年の自己点検・評価で浮き彫りになった課題について、アクションプランを用いて年度計画・予算とも関連付けつつ、課題解決までの進捗管理を行っていきます。アクションプランについては『じこてん』1号もご覧ください(『じこてん』は、大学評価ホームページでも公開中です)。

— 改善が望まれるとされた項目も…

引き続き努力が必要との指摘も受けました。

① 教育内容・方法について

FD活動については一定の改善が見られるものの、授業改善アンケートの実施率の伸び悩みやアンケートの効果的なフィードバック等、組織的な取組みについては改善の余地があるとされました。学生さんの教育を組織的にトータルで考えていくという取組みが大切になっています。

② 情報公開・説明責任について

教員の研究業績などの公開について、外国人教員や任期付教員を含め、全教員の業績が公開されていない点が指摘されました。大学が今、何を行っているのか、その特徴や改善状況を分かりやすく公表するのは大学の責務です。

この検討結果は次回認証評価(2014年)において再び改善状況を報告するため、点検・評価や年度計画を活用し、計画的な改善にご協力をお願いします。

(2) 評価委員会から提言(評価結果)を受理しました

2012年3月27日、「2010年度自己点検・評価報告書」に対する評価委員会(委員長:理事長)からの評価結果(大学への提言)が全学委員会(委員長:学長)に提出され、これを公表しました。(評価委員会については『じこてん』5号もご覧ください)

評価結果には本学が重点的に改善に取り組むべき事項が示されており、評価結果について理事長、学長は速やかに必要な措置を行うことが定められています(自己点検・評価規程第17条)。

評価結果全文はホームページに掲載しております。以下に、評価委員会における主な意見をご紹介します。

一国際化の推進と基礎的教育の充実

委員会での議論の多くは、国際化拠点大学としての本学のあり方に関するものでした。本学はグローバル30に採択されたことを契機に、様々な分野で国際化を推進していますが、それらの取組みを評価しつつ、さらなる推進のための様々な意見が出されました。

特に、教育面において、グローバル社会で生き抜くための基礎力をつけるための全学的な教養教育、国際教育、学際教育のより一層の拡充について提案されました。

一教育理念の達成を目指して

本学が「個を強くする」という教育目標の下にどのような取組みをして、どのような教育を行っているのか見えてこない。との指摘もありました。本学の建学の精神は各学部シラバスや広報媒体、それに基づく指針は「明治大学グランドデザイン2020」等で広く周知されていますが、その理念の実現化を図る教育が求められました。

一改善状況を公表しよう

自己点検・評価に基づく改善・改革への取組を社会に公表することの必要性についても意見がありました。

ご存知の通り、大学の情報、教育情報の公表は法律で義務付けられていますが、改革改善に迅速に対応する本学の姿勢を社会に公表し、社会的評価を向上させていくことも大切です。

明治大学が、今、何をしているのか、いつも皆さんがしている新たな動き、学生さんに感謝されたこと、マスコミから取材を受けたこと、本学の優れた取組みが社会からも見えるような仕組みを構築するように提言されました。

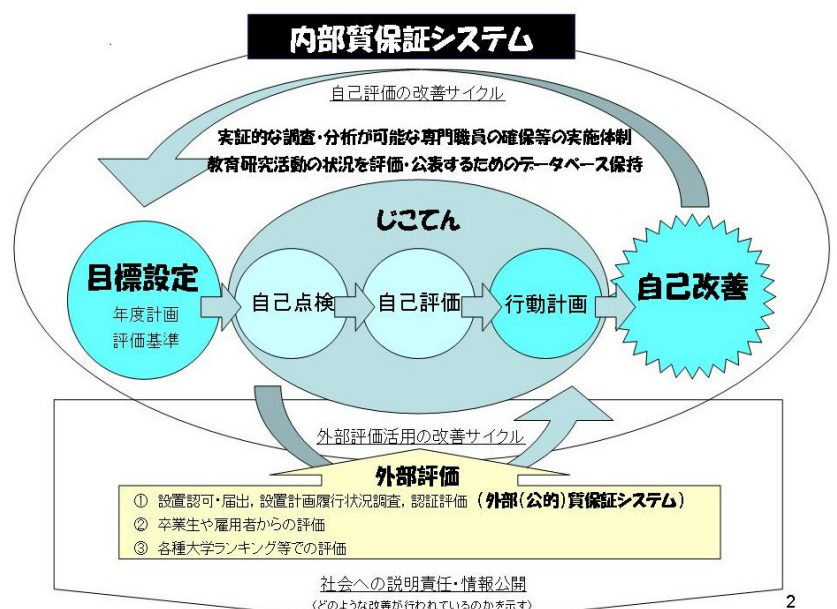
(3) 改善に向けて一内部質保証システムを具体化してみよう

大学基準協会の評価結果及び評価委員会からの評価結果は2013年度の学長方針に反映し、各機関の作成する年度計画の指針とします。学長方針に基づいて各機関で年度計画をご策定頂き、具体的な施策を実施することで、改善へのPDCAサイクルを着実に回していくことができます。

ここで右図をご覧ください。『じこてん』3号にも掲載しました、内部質保証システムの全体図です。自己点検・評価による改善サイクルと、学外の評価を取り込んだ改善サイクルの二つが機能することによって、PDCAサイクルが実質化されるのです。

今回の大学基準協会の評価結果は「外部評価」にあたります。また、評価委員会の主な構成員は、学内役職者と校友です。そのため、評価委員会による評価結果は、学内のことを熟知している内部者としての視点と、現代の社会情勢や経済動向も勘案された外部者の視点の双方を持ち合わせた、本学にとって貴重な観点からのご意見といえます。

これらの評価を真摯に受け止め、改善のためのPDCAサイクルに取り込んでいくことが重要です。



自己点検・評価結果の活用 2013年度学長方針(年度計画)に反映しました

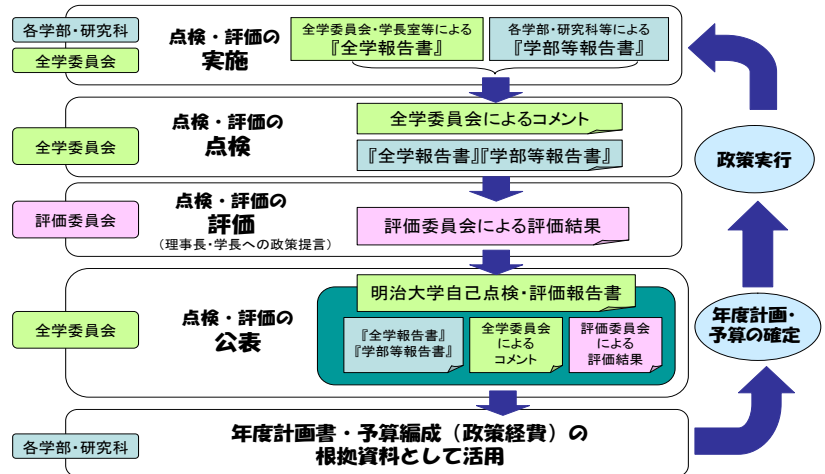
評価結果の計画への反映

2013年度「教育・研究年度計画の策定にあたって」(学長方針)は、本学の教学運営におけるPDCAサイクルの計画(P)にあたる部分です。

学長方針は、毎年度、自己点検・評価結果を活用しながら、学長スタッフ会議において方針を策定し、学部長会での審議承認を経て、学部等に提示しています。

本年度は、大学基準協会から「改善報告書検討結果」、同時に学内評価委員会から「評価結果(提言)」も公表されましたので、自己点検・評価結果に合わせて、これらを学長方針への反映することを検討しました。

明治大学の自己点検・評価プロセス



「学長方針」へ反映した点

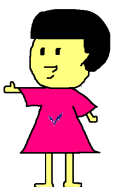
5月16日に開催された学部長会において、2013年度学長方針「次代を拓き、世界へ発信する大学」(案)が提出されました。大学基準協会からの評価結果「改善報告書の検討結果」と評価委員会からの「評価結果」を学長方針の重要課題に反映しました。

主な反映内容は以下の通りです。

- < 教学改革と教学運営体制の整備 (p.3) >
 - ・ 教員組織の整備と方針の策定
 - ・ 改善アクションプラン(3ヶ年計画)の継続
 - ・ 財政的裏付けと関連する内部質保証システムの推進
 - ・ 様々な大学情報の公表
- < 国際連携の推進(p.5) >
 - ・ 留学生の送出しとそのための経済的支援の拡充
 - ・ 海外拠点の拡充
 - ・ 語学研修プログラムの充実
 - ・ グローバル人材育成
 - ・ 国際交流体験事業の拡充
- < 研究体制の整備(p.10) >
 - ・ 国際連携研究の推進
- < 大学院の強化と充実(p.14) >
 - ・ 卓越した教育研究拠点の形成
- < 教育体制の整備(p.17) >
 - ・ FDの推進, 教育評価
 - ・ 明治大学グランドデザイン2020に基づく人材育成
 - ・ 留学生の就職支援

自己点検・評価結果の検討のプロセス

- < 2011年度 >
 - 3月6日 学長スタッフ会議
 - ・ 2011年度学長室自己点検・評価報告書の承認
 - 3月28日 自己点検・評価実務担当者説明会
 - ・ 改善報告書検討結果の受理, 学内外公表
 - ・ 評価委員会結果の受理, 学内外公表
- < 2012年度 >
 - 4月20日 自己点検・評価全学委員会打合せ会
 - ・ 改善報告書検討結果への対応
 - ・ 評価委員会結果の学長方針への反映
 - 4月24日 学長スタッフ会議
 - ・ 改善報告書検討結果の学長方針への反映
 - ・ 評価委員会結果の学長方針への反映
 - 4月28日～30日 学長スタッフ合宿研修
 - ・ 学長方針の項目, 内容検討
 - 5月8日 学長スタッフ会議
 - ・ 学長方針の検討, 評価結果の反映状況確認
 - 5月15日 学長スタッフ会議
 - ・ 学長方針の検討
 - 5月16日 学部長会
 - ・ 学長方針について審議承認, 各学部等へ提示



じこてんちゃんからのお願い!!

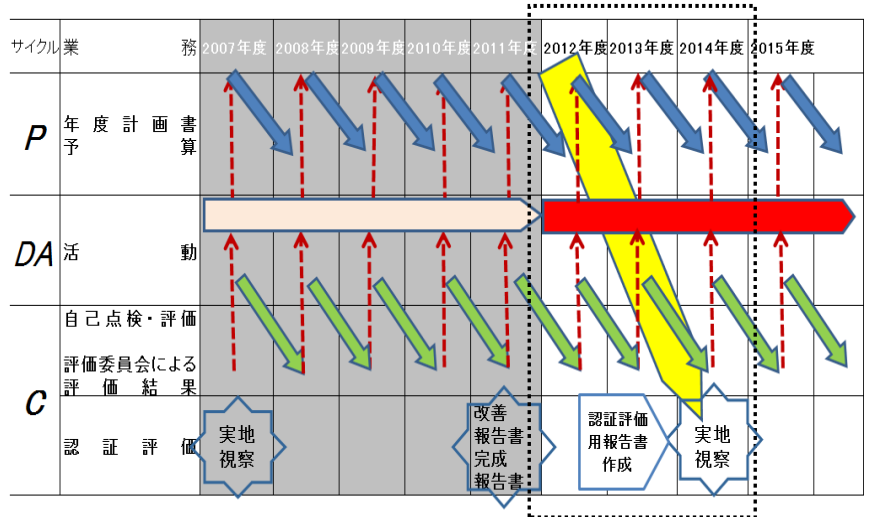
次年度計画書の策定の時期ですね。自己点検・評価は、年度計画や政策的経費の根拠資料です。学長方針に反映した評価結果も参考いただき、評価と計画を対にしながら、説得力ある計画書を作成しましょう。

大学の“健康診断” 近づく…2014年度の認証評価に向けて

右図をご覧ください。前回2007年度認証評価からのPDCAサイクルを時系列で図にしたものです。2012年度から伸びる、黄色い斜め矢印にご注目！一番下の行(認証評価欄)から辿ってみましょう。次回認証評価は2年後の2014年度ですが、評価には2013年度に作成する報告書、つまり「2012年度自己点検・評価報告書」が審査対象となります。今年は、次回認証評価の評価対象年度(根拠)となる一年なのです。

認証評価は、7年に一度の健康診断！受ける前に、直せる症状は直し、受審の前に自らの健康状況を把握しておく必要もありますね。

認証評価はまだ先のこと…と思わずに、今年は「評価」されることをいつも以上に意識して、法令対応や、議事録の整備等の根拠の整備に留意してくださいね。



注) 点線は、次期認証評価に向けた第2期「改善アクションプラン(3カ年計画)」対象期間。

じこてん日記！

①自己点検・評価実務担当者説明会を開催

3月28日、2011年度報告書作成に関する担当者説明会を開催。80名を超える皆さんに参加いただきました。伊藤副学長・教務部長から「しっかり自らを振り返り、自律的に改善改革を進めるのは、大学の責務」と挨拶があり、外池学長室専門員からは内部質保証システムの解説、続いて、報告書作成の基礎知識についての研修や、認証評価に向けての留意事項、作成手続きやスケジュールの説明等を行いました。

②大学基準協会説明会に出席

4月10日に開催された大学基準協会による大学評価に関わる説明会に出席しました。大学評価の意義、点検・評価の留意点についての説明の後、昨年度認証評価を受けた立命館大学から事例報告が行われました。大学運営の自律性を再認識すると同時に、大学評価の基準となる「全学的方針」の重要性や、大学の現況を分かりやすく社会に公表することの大切さ、学生の学習状況の把握と振り返りを含めた個人レベルの評価の工夫等、学ぶべきものがありました。

編集後記

4月から学長が交代し、学長スタッフも新しいメンバーになり、新しい『じこてん』編集担当も加わりました。自己点検報告書や年度計画書の作成にあたり、毎年の仕事だからと義務感だけで取りかかろうとしていたら、「そもそも自己点検って何のためにするのか？」とじこてん1号を読み返してみてくださいね。そして、自己点検・評価の持つ本来の趣旨を思い出してみてください。これからも内部質保証システムをしっかりと構築するために何をしなければいけないのかをじこてんちゃん&じこてんくんと一緒に考えて、取り組んでいきましょう。

一緒に頑張ろうね★



じこてん 第7号

2012年5月31日発行

明治大学 教学企画部 教学企画事務室

編集担当：阿部 直人(学長室専門員)、鳥居 高(全学委員)、外池 力(全学委員)
山本 幸一、住吉 祥子、松永 基希

東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学駿河台キャンパス 大学会館8階

電話：03(3296)4271

FAX：03(3296)4353

Email: hyouka@mics.meiji.ac.jp

URL <http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/>

